

表Ⅲ－３３ 障害の種類別にみた過去１年間のショートステイの利用日数の状況

(単位：千人)

障害の種類	総数	利用した日数					
		1～2日	3～4日	5～7日	8～9日	10日以上	回答なし
総数	165 (100.0)	29 (17.6)	40 (24.2)	34 (20.6)	11 (6.7)	29 (17.6)	21 (12.7)
視覚障害	14 (100.0)	3 (21.4)	4 (28.6)	1 (7.1)	1 (7.1)	4 (28.6)	1 (7.1)
聴覚・ 言語障害	14 (100.0)	2 (14.3)	4 (28.6)	5 (35.7)	1 (7.1)	1 (7.1)	1 (7.1)
肢体不自由	119 (100.0)	21 (17.6)	27 (22.7)	26 (21.8)	8 (6.7)	22 (18.5)	16 (13.4)
内部障害	17 (100.0)	4 (23.5)	5 (29.4)	2 (11.8)	1 (5.9)	2 (11.8)	4 (23.5)

()内は構成比(%)

- (5) ショートステイ利用希望者の改善意見をみると、「利用費用の減額」が40.3%と最も高く、次いで「利用手続きの簡素化、迅速化」が36.3%、「利用日数の増」が22.6%の順となっている。

表Ⅲ－３４ 障害の種類別にみた今後ショートステイの利用を希望する者の改善意見の状況(複数回答)

(単位：千人)

改善意見	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・ 言語障害	肢体 不自由	内部障害
総数	124 (100.0)	11 (100.0)	11 (100.0)	84 (100.0)	17 (100.0)
利用手続きの 簡素化、迅速化	45 (36.3)	4 (36.4)	5 (45.5)	28 (33.3)	7 (41.2)
利用費用の減額	50 (40.3)	5 (45.5)	6 (54.5)	32 (38.1)	8 (47.1)
サービスメニュー の多様化	19 (15.3)	1 (9.1)	1 (9.1)	13 (15.5)	4 (23.5)
利用日数の増	28 (22.6)	2 (18.2)	3 (27.3)	21 (25.0)	2 (11.8)
早朝・夜間の 入退所	16 (12.9)	1 (9.1)	1 (9.1)	11 (13.1)	2 (11.8)
施設職員の資質 の向上	17 (13.7)	1 (9.1)	1 (9.1)	15 (17.9)	1 (5.9)
その他	13 (10.5)	1 (9.1)	1 (9.1)	9 (10.7)	1 (5.9)
回答なし	14 (11.3)	2 (18.2)	1 (9.1)	8 (9.5)	3 (17.6)

()内は構成比(%)

(6) 過去1年間のホームヘルプサービスの利用状況をみると、全体では「制度は知っているが利用する必要がない」と答えた者の割合が41.2%と最も高い。これを障害の種類別にみても、いずれも「制度は知っているが利用する必要がない」の割合が最も高い。

表Ⅲ-35 障害の種類別にみたホームヘルプの利用状況

(単位：千人)

ホームヘルプサービスの利用状況	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	3,245 (100.0)	301 (100.0)	346 (100.0)	1,749 (100.0)	849 (100.0)
利用したことがある	297 (9.2)	37 (12.3)	17 (4.9)	201 (11.5)	42 (4.9)
制度は知っているが利用する必要がない	1,338 (41.2)	113 (37.5)	139 (40.2)	720 (41.2)	366 (43.1)
利用を希望したが利用できなかった	16 (0.5)	1 (0.3)	2 (0.6)	9 (0.5)	4 (0.5)
制度を知らなかったため利用したことがない	101 (3.1)	11 (3.7)	18 (5.2)	50 (2.9)	22 (2.6)
その他	202 (6.2)	27 (9.0)	15 (4.3)	114 (6.5)	46 (5.4)
回答なし	1,292 (39.8)	111 (36.9)	155 (44.8)	655 (37.4)	370 (43.6)

()内は構成比(%)

(7) ホームヘルプサービスの利用頻度をみると、「週3回以上」の割合が27.9%と最も高く、次いで「週2回」が26.3%である。

ホームヘルプサービス1回の平均利用時間についてみると、「1～2時間」の48.1%が最も高く、次いで「1時間以内」が27.9%、「3時間以上」が10.1%の順となっている。これを障害の種類別にみると、各障害でいずれも「1～2時間」の割合が最も高い。

表Ⅲ-36 障害の種類別にみたホームヘルプの利用頻度の状況

(単位：千人)

障害の種類	総数	利用頻度						回答なし
		月に1回	月に2～3回	週に1回	週に2回	週に3回以上	その他	
総数	297 (100.0)	10 (3.4)	18 (6.1)	65 (21.9)	78 (26.3)	83 (27.9)	14 (4.7)	29 (9.8)
視覚障害	37 (100.0)	-	4 (10.8)	9 (24.3)	11 (29.7)	7 (18.9)	3 (8.1)	4 (10.8)
聴覚・言語障害	17 (100.0)	-	2 (11.8)	6 (35.3)	1 (5.9)	4 (23.5)	1 (5.9)	2 (11.8)
肢体不自由	201 (100.0)	9 (4.5)	11 (5.5)	40 (19.9)	53 (26.4)	60 (29.9)	8 (4.0)	20 (10.0)
内部障害	42 (100.0)	1 (2.4)	1 (2.4)	10 (23.8)	12 (28.6)	12 (28.6)	1 (2.4)	4 (9.5)

()内は構成比(%)

表Ⅲ-37 障害の種類別にみたホームヘルプサービスの1回の平均利用時間の状況

(単位：千人)

障害の種類	総数	平均利用時間			
		1時間以内	1～2時間	3時間以上	回答なし
総数	297 (100.0)	83 (27.9)	143 (48.1)	30 (10.1)	41 (13.8)
視覚障害	37 (100.0)	6 (16.2)	21 (56.8)	4 (10.8)	6 (16.2)
聴覚・ 言語障害	17 (100.0)	5 (29.4)	6 (35.3)	2 (11.8)	4 (23.5)
肢体不自由	201 (100.0)	61 (30.3)	95 (47.3)	19 (9.5)	27 (13.4)
内部障害	42 (100.0)	11 (26.2)	21 (50.0)	6 (14.3)	4 (9.5)

()内は構成比(%)

- (8) ホームヘルプサービス利用希望者の改善意見をみると、「利用費用の減額」が37.4%と最も高く、次いで、「緊急時の派遣」が33.3%、「利用手続きの簡素化、迅速化」が28.9%の順となっている。これを障害の種類別にみると、視覚障害では「緊急時の派遣」が27.6%、聴覚・言語障害、肢体不自由、内部障害では「利用費用の減額」の割合が最も高い。

表Ⅲ-38 障害の種類別にみた今後ホームヘルプサービスの利用を希望する者の改善意見の状況(複数回答)

(単位：千人)

改善意見	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・ 言語障害	肢体 不自由	内部障害
総数	246 (100.0)	29 (100.0)	14 (100.0)	162 (100.0)	42 (100.0)
利用手続きの簡素化、 迅速化	71 (28.9)	6 (20.7)	4 (28.6)	45 (27.8)	17 (40.5)
利用費用の減額	92 (37.4)	6 (20.7)	6 (42.9)	61 (37.7)	18 (42.9)
プライバシーの保護の 徹底	33 (13.4)	3 (10.3)	1 (7.1)	22 (13.6)	6 (14.3)
派遣回数、時間の増	45 (18.3)	4 (13.8)	1 (7.1)	35 (21.6)	4 (9.5)
早朝・夜間・休日の派遣	45 (18.3)	5 (17.2)	3 (21.4)	33 (20.4)	4 (9.5)
指名制度の導入	39 (15.9)	4 (13.8)	1 (7.1)	32 (19.8)	1 (2.4)
ホームヘルパーの資質 の向上	55 (22.4)	4 (13.8)	1 (7.1)	40 (24.7)	10 (23.8)
緊急時の派遣	82 (33.3)	8 (27.6)	5 (35.7)	57 (35.2)	12 (28.6)
その他	22 (8.9)	2 (6.9)	1 (7.1)	14 (8.6)	4 (9.5)
回答なし	34 (13.8)	6 (20.7)	1 (7.1)	17 (10.5)	9 (21.4)

()内は構成比(%)

(9) 過去1年間のデイサービスの利用状況をみると、全体では「制度は知っているが利用する必要がない」の割合が36.8%である。これを障害の種類別にみても、各障害でいずれも「制度は知っているが利用する必要がない」の割合が高い。

表Ⅲ-39 障害の種類別にみたデイサービスの利用状況

(単位：千人)

デイサービスの利用状況	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	3,245 (100.0)	301 (100.0)	346 (100.0)	1,749 (100.0)	849 (100.0)
利用したことがある	359 (11.1)	27 (9.0)	34 (9.8)	263 (15.0)	35 (4.1)
制度は知っているが利用する必要がない	1,194 (36.8)	120 (39.9)	124 (35.8)	610 (34.9)	341 (40.2)
利用を希望したが利用できなかった	20 (0.6)	1 (0.3)	3 (0.9)	13 (0.7)	4 (0.5)
制度を知らなかったので利用したことがない	116 (3.6)	14 (4.7)	11 (3.2)	55 (3.1)	35 (4.1)
その他	206 (6.3)	26 (8.6)	16 (4.6)	121 (6.9)	44 (5.2)
回答なし	1,351 (41.6)	114 (37.9)	159 (46.0)	687 (39.3)	391 (46.1)

() 内は構成比 (%)

(10) デイサービスの利用頻度をみると「週1回」の割合が32.3%と最も高く、次に「週2回」が29.8%である。これを障害の種類別にみると、それぞれ若干のばらつきはあるものの「週1回」の割合が高い。

表Ⅲ-40 障害の種類別にみたデイサービスの利用頻度の状況

(単位：千人)

障害の種類	総数	利用頻度							その他	回答なし
		1か月に1回	1か月に2~3回	1週間に1回	1週間に2回	1週間に3~4回	1週間に5回以上			
総数	359 (100.0)	17 (4.7)	22 (6.1)	116 (32.3)	107 (29.8)	54 (15.0)	6 (1.7)	7 (1.9)	29 (8.1)	
視覚障害	27 (100.0)	-	1 (3.7)	11 (40.7)	6 (22.2)	4 (14.8)	-	1 (3.7)	4 (14.8)	
聴覚・言語障害	34 (100.0)	4 (11.8)	4 (11.8)	9 (26.5)	6 (17.6)	7 (20.6)	-	-	4 (11.8)	
肢体不自由	263 (100.0)	11 (4.2)	16 (6.1)	83 (31.6)	85 (32.3)	40 (15.2)	4 (1.5)	6 (2.3)	19 (7.2)	
内部障害	35 (100.0)	2 (5.7)	2 (5.7)	14 (40.0)	10 (28.6)	3 (8.6)	2 (5.7)	-	1 (2.9)	

() 内は構成比 (%)

(11) デイサービス利用希望者の改善意見についてみると、「利用費用の減額」が39.3%と最も高い。障害の種類別にみると、各障害いずれも「利用費用の減額」の割合が最も高い。

表Ⅲ－４１ 障害の種類別にみた今後デイサービスの利用を希望する者の改善意見の状況（複数回答）

(単位：千人)

改善意見	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	295 (100.0)	20 (100.0)	31 (100.0)	205 (100.0)	40 (100.0)
利用手続きの簡素化、迅速化	65 (22.0)	4 (20.0)	8 (25.8)	42 (20.5)	11 (27.5)
利用費用の減額	116 (39.3)	7 (35.0)	17 (54.8)	76 (37.1)	16 (40.0)
プライバシーの保護の徹底	14 (4.7)	-	1 (3.2)	11 (5.4)	2 (5.0)
利用時間の増	42 (14.2)	3 (15.0)	5 (16.1)	27 (13.2)	7 (17.5)
利用日数の増	55 (18.6)	4 (20.0)	9 (29.0)	37 (18.0)	5 (12.5)
サービスメニューの多様化	53.0 (18.0)	3.0 (15.0)	1.0 (3.2)	44.0 (21.5)	5.0 (12.5)
施設職員の資質の向上	31.0 (10.5)	1.0 (5.0)	1.0 (3.2)	27.0 (13.2)	3.0 (7.5)
その他	16 (5.4)	3 (15.0)	1 (3.2)	10 (4.9)	1 (2.5)
回答なし	48 (16.3)	4 (20.0)	5 (16.1)	33 (16.1)	6 (15.0)

() 内は構成比 (%)

14 補装具・日常生活用具の所有状況

(1) 補装具の所有状況をみると、「所有している」が34.0%、「所有していない」が41.7%である。これを障害の種類別にみると、「所有している」者の割合は、聴覚・言語障害者が55.2%で最も高く、次いで肢体不自由者38.5%、視覚障害者35.9%、内部障害者15.4%の順である。

表Ⅲ-42 障害の種類別にみた補装具の所有の状況

(単位：千人)

補装具の 所有状況	総 数	障 害 種 類 別			
		視覚障害	聴覚・ 言語障害	肢体 不自由	内部障害
総 数	3,245 (100.0)	301 (100.0)	346 (100.0)	1,749 (100.0)	849 (100.0)
所有している	1,104 (34.0)	108 (35.9)	191 (55.2)	673 (38.5)	131 (15.4)
所有していない	1,352 (41.7)	124 (41.2)	88 (25.4)	713 (40.8)	427 (50.3)
回答なし	790 (24.3)	69 (22.9)	67 (19.4)	363 (20.8)	291 (34.3)

() 内は構成比 (%)

(2) 国の制度で交付された補装具は、全体の70.8%である。補装具の種類別にみると、「歩行補助つえ」を所有する者が350,000人で最も多く、次いで「車いす」が302,000人、「装具」が224,000人である。

表Ⅲ-43 制度別補装具の所有の状況 (複数回答)

(単位：千人)

補装具の種類	総 数	福祉制度	労災制度	年金制度	医療保険 制度	その他	制度不詳	(再掲) 国の 制度で交付
所有者延べ総数	1,503 (100.0)	884 (58.8)	46 (3.1)	32 (2.1)	102 (6.8)	236 (15.7)	203 (13.5)	1,064 (70.8)
義肢	77 (100.0)	41 (53.2)	16 (20.8)	7 (9.1)	4 (5.2)	5 (6.5)	4 (5.2)	68 (88.3)
装具	224 (100.0)	128 (57.1)	9 (4.0)	3 (1.3)	67 (29.9)	11 (4.9)	6 (2.7)	207 (92.4)
座位保持装置	13 (100.0)	6 (46.2)	-	-	-	4 (30.8)	2 (15.4)	6 (46.2)
盲人安全つえ	69 (100.0)	57 (82.6)	1 (1.4)	-	-	7 (10.1)	4 (5.8)	58 (84.1)
義眼	16 (100.0)	8 (50.0)	1 (6.3)	-	1 (6.3)	4 (25.0)	2 (12.5)	10 (62.5)
眼鏡	42 (100.0)	19 (45.2)	1 (2.4)	-	-	9 (21.4)	14 (33.3)	20 (47.6)
点字器	17 (100.0)	11 (64.7)	-	-	-	3 (17.6)	2 (11.8)	11 (64.7)
補聴器	206 (100.0)	146 (70.9)	1 (0.5)	6 (2.9)	-	27 (13.1)	26 (12.6)	153 (74.3)
人工喉頭	10 (100.0)	6 (60.0)	-	-	-	1 (10.0)	3 (30.0)	6 (60.0)
車いす	302 (100.0)	211 (69.9)	6 (2.0)	15 (5.0)	-	42 (13.9)	29 (9.6)	232 (76.8)
電動車いす	32 (100.0)	19 (59.4)	1 (3.1)	1 (3.1)	-	6 (18.8)	6 (18.8)	21 (65.6)
歩行器	31 (100.0)	19 (61.3)	1 (3.2)	-	1 (3.2)	6 (19.4)	4 (12.9)	21 (67.7)
頭部保護帽	7 (100.0)	4 (57.1)	-	-	-	1 (14.3)	1 (14.3)	4 (57.1)
収尿器	31 (100.0)	11 (35.5)	2 (6.5)	-	-	9 (29.0)	8 (25.8)	13 (41.9)
ストマ用装具	75 (100.0)	65 (86.7)	1 (1.3)	-	-	4 (5.3)	4 (5.3)	66 (88.0)
歩行補助つえ	350 (100.0)	133 (38.0)	6 (1.7)	-	29 (8.3)	94 (26.9)	88 (25.1)	168 (48.0)

() 内は構成比 (%)

(3) 日常生活用具の所有状況をみると「所有している」が22.5%、「所有していない」が53.2%である。これを障害の種類別にみると、肢体不自由が27.8%で最も高く、次に視覚障害25.9%、聴覚・言語障害22.0%、内部障害10.4%である。

表Ⅲ-44 障害の種類別にみた日常生活用具の所有の状況

(単位：千人)

日常生活用具の 所有状況	総 数	障 害 種 類 別			
		視覚障害	聴覚・ 言語障害	肢体 不自由	内部障害
総 数	3,245 (100.0)	301 (100.0)	346 (100.0)	1,749 (100.0)	849 (100.0)
所有している	730 (22.5)	78 (25.9)	76 (22.0)	487 (27.8)	88 (10.4)
所有していない	1,726 (53.2)	154 (51.2)	203 (58.7)	899 (51.4)	470 (55.4)
回答なし	790 (24.3)	69 (22.9)	67 (19.4)	363 (20.8)	291 (34.3)

() 内は構成比 (%)

(4) 福祉制度で給付または貸与された日常生活用具をみると、特殊寝台、入浴補助用具、歩行支援用具、盲人用時計、ファックス、便器等が多く給付（貸与）されている。

表Ⅲ－４５ 障害の種類別にみた福祉制度で給付等された日常生活用具の
所有の状況（複数回答）

(単位：千人)

日常生活用具の種類	総数	視覚障害	聴覚・ 言語障害	肢体 不自由	内部障害
総数	330	43	45	205	38
盲人用テーブルコーダー	14	13	-	-	1
盲人用時計	29	26	1	1	1
盲人用タイムスイッチ	-	-	-	-	-
盲人用カナタイプライター	2	1	-	-	1
点字タイプライター	4	4	-	-	-
盲人用電卓	6	6	-	-	-
電磁調理器	6	6	-	-	-
盲人用体温計（音声式）	9	9	-	-	1
盲人用秤	-	-	-	-	-
点字図書	3	3	-	-	-
盲人用体重計	6	6	-	-	1
視覚障害者用拡大読書器	9	7	-	1	1
歩行時間延長信号機用小型送信機	-	-	-	-	-
点字ディスプレイ	-	-	-	-	-
聴覚障害者用屋内信号装置	19	-	19	-	-
聴覚障害者用通信装置	9	-	9	-	-
文字放送デコーダー	10	-	9	1	1
浴槽	19	1	1	14	3
湯沸器	9	1	-	7	1
便器	25	1	1	20	3
特殊便器	17	1	-	17	-
特殊マット	23	-	-	23	-
特殊寝台	103	3	1	96	3
電動タイプライター	1	-	-	1	-
ワードプロセッサ	11	-	-	11	-
電動歯ブラシ	2	-	-	2	-
特殊尿器	4	-	-	2	2
入浴担架	3	-	-	3	-
体位変換器	3	-	-	3	-
重度障害者用意志伝達装置	4	-	-	4	-
携帯用会話補助装置	4	-	3	1	-
入浴補助用具	65	1	3	57	4
移動用リフト	6	-	-	6	1
歩行支援用具	51	1	1	47	3
透析液加温器	4	-	-	1	4
酸素ポンプ運搬車	12	-	-	2	10
ネブライザー	4	-	-	1	2
火災警報器	6	1	1	4	-
自動消化器	2	-	-	2	-
緊急通報装置	17	2	2	9	4
電気式たん吸引器	8	-	-	6	1
福祉電話	14	1	-	7	6
ファックス	26	-	23	3	-
視覚障害者用ワードプロセッサ	1	-	-	1	-

(5) 自費で購入した日常生活用具をみると、歩行支援用具、便器、入浴補助用具、特殊寝台、浴槽等が多く購入されている。

表Ⅲ－４６ 障害の種類別にみた自費で購入した日常生活用具の
所有の状況（複数回答）

（単位：千人）

日常生活用具の種類	総数	視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	530	47	54	371	57
盲人用テープレコーダー	6	6	-	-	-
盲人用時計	22	19	1	1	-
盲人用タイムスイッチ	1	1	-	-	-
盲人用カナタイプライター	1	1	-	-	-
点字タイプライター	4	4	1	-	-
盲人用電卓	2	2	-	-	-
電磁調理器	14	1	1	8	3
盲人用体温計（音声式）	4	4	-	-	-
盲人用秤	2	2	-	-	-
点字図書	4	4	-	-	-
盲人用体重計	3	3	-	-	-
視覚障害者用拡大読書器	7	5	-	1	1
歩行時間延長信号機用小型送信機	1	1	-	-	-
点字ディスプレイ	1	1	-	-	-
聴覚障害者用屋内信号装置	11	-	10	-	1
聴覚障害者用通信装置	11	1	9	1	1
文字放送デコーダー	8	-	7	1	-
浴槽	63	1	4	47	10
湯沸器	40	1	3	28	8
便器	134	4	10	103	17
特殊便器	32	2	2	24	4
特殊マット	29	-	-	27	3
特殊寝台	73	1	4	64	4
電動タイプライター	1	-	-	1	-
ワードプロセッサ	17	1	2	12	2
電動歯ブラシ	50	2	2	41	4
特殊尿器	17	-	1	13	3
入浴担架	2	-	-	2	-
体位変換器	3	-	-	3	-
重度障害者用意志伝達装置	2	1	1	1	-
携帯用会話補助装置	7	-	3	2	2
入浴補助用具	91	2	2	80	6
移動用リフト	8	-	-	8	-
歩行支援用具	205	6	2	183	14
透析液加温器	1	-	-	1	1
酸素ボンベ運搬車	5	1	-	-	4
ネブライザー	13	1	3	7	2
火災警報器	9	-	2	4	4
自動消化器	8	1	1	6	-
緊急通報装置	6	1	-	4	1
電気式たん吸引器	14	-	3	10	1
福祉電話	7	1	1	3	3
ファックス	47	3	15	25	4
視覚障害者用ワードプロセッサ	4	1	-	1	1

15 福祉サービスを利用する際の相談相手の状況

福祉サービスを利用する際の相談相手の状況についてみると、「配偶者」が32.0%と最も高く、次いで「子供」が28.6%、「市（区）役所、町村役場の職員」が23.3%、「医師」が22.8%の順になっている。これを障害の種類別についてみると、各障害いづれも「配偶者」「子供」の割合が高い。

表Ⅲ－４７ 障害の種類別にみた相談相手の状況（複数回答）

(単位：千人)

相談相手	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	3,245 (100.0)	301 (100.0)	346 (100.0)	1,749 (100.0)	849 (100.0)
親・祖父母	160 (4.9)	13 (4.3)	22 (6.4)	105 (6.0)	20 (2.4)
兄弟姉妹	180 (5.5)	16 (5.3)	24 (6.9)	98 (5.6)	42 (4.9)
子供	928 (28.6)	83 (27.6)	103 (29.8)	520 (29.7)	221 (26.0)
配偶者	1,037 (32.0)	87 (28.9)	95 (27.5)	573 (32.8)	282 (33.2)
友人・知人	139 (4.3)	22 (7.3)	21 (6.1)	63 (3.6)	34 (4.0)
会社の人・学校の先生	9 (0.3)	1 (0.3)	2 (0.6)	6 (0.3)	1 (0.1)
医師	739 (22.8)	44 (14.6)	58 (16.8)	402 (23.0)	235 (27.7)
施設の職員	197 (6.1)	14 (4.7)	19 (5.5)	142 (8.1)	22 (2.6)
専門機関の職員	285 (8.8)	27 (9.0)	27 (7.8)	165 (9.4)	66 (7.8)
市（区）役所、町村役場の職員	757 (23.3)	55 (18.3)	77 (22.3)	413 (23.6)	212 (25.0)
地域生活支援センターなどの職員	86 (2.7)	11 (3.7)	6 (1.7)	56 (3.2)	12 (1.4)
民生委員	216 (6.7)	28 (9.3)	27 (7.8)	111 (6.3)	50 (5.9)
身体障害者相談員	131 (4.0)	7 (2.3)	19 (5.5)	81 (4.6)	24 (2.8)
障害者の団体	76 (2.3)	11 (3.7)	11 (3.2)	33 (1.9)	20 (2.4)
その他	131 (4.0)	14 (4.7)	14 (4.0)	75 (4.3)	29 (3.4)
回答なし	691 (21.3)	66 (21.9)	73 (21.1)	336 (19.2)	216 (25.4)

() 内は構成比 (%)

16 必要な福祉サービスについての要望の状況

- (1) 必要な福祉サービスの要望についてみると、全体的には「年金や手当などの所得保障の充実」が37.3%で最も高く、次いで「医療費の負担軽減」が31.5%、「道路、交通機関、公共建築物等の利用を容易にするための施策の充実」が21.6%となっている。
- (2) これを障害の種類別にみると、いずれも「年金や手当などの所得保障の充実」が最も高く、「医療費の負担軽減」、「在宅福祉サービスの充実」は各障害者とも共通して上位にあり、「道路、交通機関、公共建築物等の利用を容易にするための施策の充実」、「障害者が暮らしやすい住宅の整備」の要望については、障害別に若干の差異はあるが比較的割合が高い。

表Ⅲ-48 障害の種類別にみた必要な福祉サービスの要望の状況（複数回答）

(単位：千人)

必要な福祉サービスの種類	総数	障害種類別			
		視覚障害	聴覚・言語障害	肢体不自由	内部障害
総数	3,245 (100.0)	301 (100.0)	346 (100.0)	1,749 (100.0)	849 (100.0)
障害者世帯向け公営住宅や福祉ホーム等の障害者が暮らしやすい住宅の整備	529 (16.3)	49 (16.3)	45 (13.0)	302 (17.3)	133 (15.7)
授産施設、福祉工場等の福祉的配慮のされた働く場ないし活動の場の確保	145 (4.5)	9 (3.0)	19 (5.5)	85 (4.9)	32 (3.8)
ホームヘルパー、ショートステイ等在宅福祉サービスの充実	551 (17.0)	49 (16.3)	42 (12.1)	358 (20.5)	103 (12.1)
入所施設の整備	297 (9.2)	23 (7.6)	24 (6.9)	194 (11.1)	55 (6.5)
機能訓練の充実	353 (10.9)	14 (4.7)	17 (4.9)	287 (16.4)	35 (4.1)
総合的な相談や社会生活支援を行う事業の充実	313 (9.6)	22 (7.3)	24 (6.9)	206 (11.8)	62 (7.3)
年金や手当などの所得保障の充実	1,209 (37.3)	122 (40.5)	106 (30.6)	669 (38.3)	313 (36.9)
医療費の負担軽減	1,021 (31.5)	83 (27.6)	100 (28.9)	573 (32.8)	265 (31.2)
障害者の雇用施策の充実	305 (9.4)	22 (7.3)	38 (11.0)	182 (10.4)	63 (7.4)
道路、交通機関、公共建築物等の利用を容易にするための施策の充実	700 (21.6)	75 (24.9)	41 (11.8)	438 (25.0)	147 (17.3)
点字図書、録音図書、手話放送、字幕放送などの情報提供の充実	72 (2.2)	22 (7.3)	42 (12.1)	4 (0.2)	4 (0.5)
手話通訳、要約筆記制度の充実	34 (1.0)	-	32 (9.2)	1 (0.1)	1 (0.1)
パソコン教室の充実	221 (6.8)	19 (6.3)	18 (5.2)	130 (7.4)	54 (6.4)
障害者のスポーツ、芸術、文化活動等に対する支援	178 (5.5)	17 (5.6)	17 (4.9)	100 (5.7)	45 (5.3)
災害時・緊急時の情報提供・通信体制・避難誘導対策の充実	394 (12.1)	48 (15.9)	40 (11.6)	209 (11.9)	98 (11.5)
福祉教育やボランティア活動などの障害者理解や障害者との交流の促進	279 (8.6)	33 (11.0)	29 (8.4)	151 (8.6)	66 (7.8)
就労・就学のためのコミュニケーションサービスの充実	72 (2.2)	3 (1.0)	9 (2.6)	44 (2.5)	17 (2.0)
その他	115 (3.5)	12 (4.0)	12 (3.5)	59 (3.4)	32 (3.8)
回答なし	1,064 (32.8)	101 (33.6)	137 (39.6)	506 (28.9)	320 (37.7)

() 内は構成比 (%)